

# 遊馬々 PLUS

## 無料

ご自由にお持ちください

[www.kanazawakeiba.com](http://www.kanazawakeiba.com)

2021年 6月

# vol. 46

※ご意見、ご感想をお寄せください

宛先 E-Mail: [yushun.plus@gmail.com](mailto:yushun.plus@gmail.com)

<http://sites.google.com/site/yushunplus/>

ハクサンアマゾネスの成績を眺めていると距離は不問。二〇〇〇m以上では五戦三勝二着一回。唯一の着外は川崎でのダートグレードのエンプレス杯。度外視してもいいし、七着とは言え中央勢二頭に先着して内



ハクサンアマゾネス

Photo by miwa

この走りに納得いかない、となったのか十二日後の利家盃に出走して快勝。優先出走権を持って堂々百万石賞へ向かう。

可能性を感じさせるのは利家盃二着のエイシンレーザーか。中央↓園田↓南関と渡り歩いて金沢に今年の開幕から所属。平場を八馬身差圧勝すると次走の重賞金沢スプリングカップで二着、そして利家盃でハクサンアマゾネスに一馬身半差にまで迫ったの重賞連続二着。

内を突いての猛追は一瞬やっただかと思わせる勢い。中央時代からの勝利は全て一七〇〇m以上で距離はあるに越したことがないであろう。本番の百万石賞は一〇〇m延長の二一〇〇m。あの末脚があればもっ



エイシンレーザー

Photo by miwa

重賞七勝馬のハクサンアマゾネスを止める馬はいないか。

他にも前年百万石賞三着、今年の利家盃でもしごとく三着粘った古豪ティモシーブルー、前年百万石賞二着、今年に入って重賞連続三着と九歳でも意気軒高のトウショウデュエルなど面子は揃った。今年の前半戦、あるいは秋のJBCに向けての熱戦を期待したい。



ファストフラッシュ

Photo by miwa

と肉薄、あるいは逆転もあり得るかも。馬場は良馬場に集中しているが利家盃は重馬場。こなせない事はないだろう。芝でも三着に入った経験もあるスピードがこの大舞台で炸裂するか注目。そんなエイシンレーザーに重賞金沢スプリングカップで先着したのがファストフラッシュ、こちらも軽視はできない。前年の百万石賞では五着に入り、リピーターが好走するこの舞台では実力を発揮できそう。しかし、ハクサンアマゾネスには二戦二敗と分が悪い。距離が伸びたここで逆転を狙う。

## 今年の祭りは競馬場だ!

金沢の市祭、百万石まつりは昨年が続いてコロナ禍で中止となつてしまつたが、金沢競馬前半戦の大一番百万石賞は観客を入れて行われる。

注目はやはりハクサンアマゾネス。開幕最初の重賞JBCイヤード記念(一四〇〇m)を圧勝。微軫(ことし)賞ではアマゾネス対決となつたネオアマゾネスに足元掬われて二着。

容も濃い。

馬場状態も良から不良まで全てで勝利を挙げて梅雨に入って雨が降っても大丈夫。

視界の先には秋のJBC金沢があるであろう彼女。ここはあくまで通過点と言えそう。この舞台に死角はない。

と肉薄、あるいは逆転もあり得るかも。馬場は良馬場に集中しているが利家盃は重馬場。こなせない事はないだろう。芝でも三着に入った経験もあるスピードがこの大舞台で炸裂するか注目。



**激戦を制して アイバンホー  
一冠達成！ 石川ダービー**

五月二十五日、日本で一番新しく、早く開催されるダービー、石川ダービーが開催された。

一番人気は前走北日本新聞杯で二秒差の大差勝ちを見せたアイバンホー。その圧倒的な走りにダービーは決まり、と思われていた。



ビルボードクイン Photo by miwa

そんな彼を止めると言わんばかりに五月に金沢のコースに登場したのがビルボードクイン。ダービーを獲得するために中央から金沢にやって来た馬、と言われて金沢デビュー戦では重賞馬や実力馬を四馬身ちぎって圧勝して見せた。

ダービー当日はこの二強一騎打ちムード。しかし、ダービーの時間になると俄かに空は曇り、強風と雨が降って何やら不穏なムードが漂う。しかし、そんな天候の変化は全く関係がなかった。

係がなかった。

ゲートが開くと一昨年のダービージョッキ、中島騎手のアイバンホーが先手を奪ってハナに立つ。それを昨年のダービージョッキ吉原騎手のビルボードクインがぴつたり追走。その二強に果敢にサブノタマヒメが挑むように追いかけて、実力馬フューリアスとエイシングフトも懸命に追走する。

しかし、前の二頭は互いのみを意識しているような、まるで二頭立てのようなレースを展開。二週目に入る頃にはこの二頭が三番手以下を引き離してマッチレースの様相となる。

先頭を行くアイバンホーに並びかけようとビルボードクインが動くがアイバンホーは譲らない。じりじりと差を広げながら最後の直線。



Photo by miwa

アイバンホー

アイバンホーが馬場の真ん中を懸命に逃げる。それをビルボードクインが追い、迫る。中島騎手が

懸命に追い、吉原騎手が懸命に鞭を振るう。後ろからは何も来ない。短い金沢の直線での長い長い追い比べの末、アイバンホーがクビ差凌いで

五頭目の石川ダービー馬となった。中島騎手は二年ぶり二度目のダービー制覇、二着の吉原騎手は五年連続（つまり全部）連対と完全にダービー男となった。

九馬身差の三着は実力馬フューリアス、そこから六馬身差四着にサブノタマヒメ、半馬身差五着がエイシングフトとなり、前でレースを進めた五頭が掲示板を占めた。

最後の直線の一騎打ちは見ごたえのある正に名勝負。これからもこの二頭の名勝負数え歌が続くのか、それともさらなる高みを目指して道を違えるのか。この二頭からは目が離せない。

また二頭にはちぎられたが、フューリアスは六番人気の低評価を覆しての馬券圏内。堅実さは今後も買えそう。そしてサブノタマヒメは距離の壁が立ち足はだかっているのか、これで一七〇〇m以上は三戦三敗となった。

この金沢生え抜きの二頭は、今年名古屋で行われる西日本ダービー（二九〇〇m）に出走ができる。ダービー馬への希みはまだある。

様々な未来に向けて。ダービーを無事に走り抜けた優勝達の今後に期待をしたい。



「アフターコロナとJBC」

石川ダービーも日本ダービーも最後の直線の追い比べは画面の前で声上がるほどに迫力があり、力の籠る物だった。僅差の勝負はまさに名勝負。記憶にしっかりと残るダービーとなった。

そんな名勝負のダービー。現地では昨年と大きく異なる事があった。去年は聞こえなかった拍手や、控えめではあったがファンの歓声があがったのである。

昨今の今頃、全国の競馬場では観客を入れない無観客開催が行われていてファンは画面越しでしかダービーを楽しめなかった。

今年になっても依然としてコロナは楽観視できない状況だが、抽選や上限ありとは言え現地で競馬を楽しむ状況になり、馬が走る音以外の音が聞こえるダービーとなった。

…そうすると、気になるのは秋のJBC。果たしてファンは現地で観戦できるのだろうか。

まさか「オリンピックも終わったので、感染対策引き締めのために再び無観客です」、なんて言い出すことはないだろう。

ハッピーポイントカード所持が条件なのは変わらないだろうが、上限一三〇〇人は変わるのだろうか。

先着一三〇〇人でJBCをやるものなら、折しも初冬の十一月、河北潟からの寒風吹き荒む金沢の北の果てでは徹夜組多数、などという事態にもなりかねず、これでは待つ間にコロナとは別の原因で熱発なんてことになるかもしれない。

イベントにおけるコロナ対策で言われているのが観客は五〇〇〇人まで、あるいは収容人数の五〇パーセントまでというもの。金沢競馬場の収容能力は一五〇〇〇人とされていて、それだったら七五〇〇人。五〇〇〇人でも七五〇〇人でも

一三〇〇人に比べたらまだマシに見えるが、前回のJBCの観衆は一万二五六九人。依然として狭き門である。JRAや南関のように抽選制にした方がすっきりすると思うが、如何だろうか。

いずれにせよ、主催者はもう検討を始めているだろう。今後コロナがどうなるかわからない中で作業の難しさは、察するに余りある。

どのような結論になつてもいいが、その情報はいち早く公開してほしいと強く願う。

昨年の有観客開催開始の公式発表が、開始日の一〇日ほど前だった事は忘れていない。

今年は今年度の開催日程が二月中旬に発表されるなど情報の公開に力が入っているように見える。その力を全国に見せつける時が来ている。